赤い月が夜空に

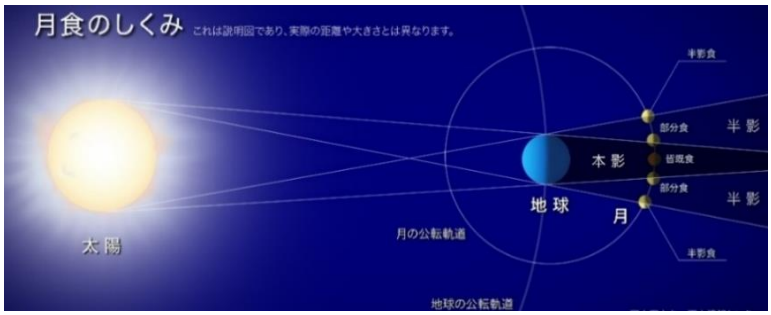
５月２６日　皆既月食（かいきげっしょく）

発行：福岡県青少年科学館　令和３年５月

２０２１年5月２６日、日本全国で皆既月食が見られます。次に見られるのは２０２２年１１月８日と１年以上も先なので、ぜひこの機会に月食がどのような様子で見られるのか、観察してみてはいかがでしょうか。

月食って何だろう？

地球と月は太陽の光を反射して輝く天体です。地球にも太陽の光による影があり、太陽とは反対の方向に伸びています。この地球の影の中を月が通過することによって、月が暗くなったり、欠けたように見えたりする現象が「月食」です。地球の影は、太陽光の一部だけが遮られた「半影」と、太陽光がほぼ遮られた「本影」があります。本影の中に月の一部が入ると月が欠けたように見える「部分食」、月の全てが入ると赤黒い色に見える「皆既食」となります。　（国立天文台ＨＰ「月食とは」より抜粋）

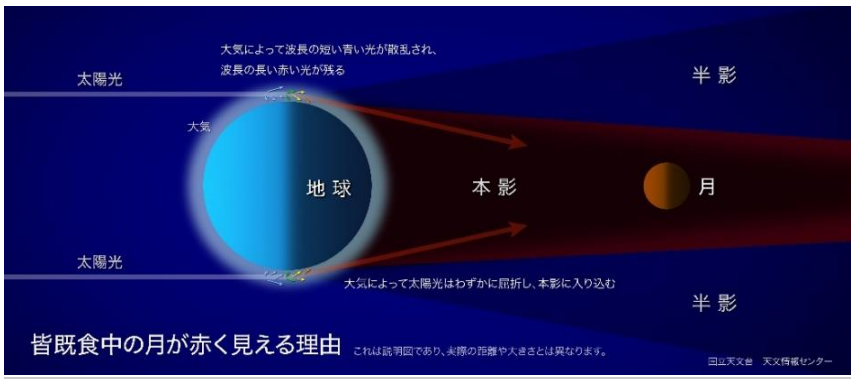


提供　国立天文台

提供　国立天文台

なぜ月が赤く見える

太陽光の中で波長の短い青い光は、地球の大気中を通過するとき散乱され、大気中をほとんど通過することはできません。波長の長い赤い光は散乱されにくく大気を通過し、大気によってわずかに屈折された赤い光が本影に入り込みます。このかすかな赤い光が月を照らすので、月は赤黒く見えるのです。



提供　国立天文台

ただし、その色合いは毎回微妙に異なっており、大気中のチリが少ない時には、大気を通り抜ける光の量が多くなり、オレンジ色のような明るい色の月が見られます。また、大気中のチリが多いときには、大気を通り抜ける光の量が少なくなるので、灰色に見えたり、真っ暗で月が見えなくなったりすることもあります。

いつどのように見える？

今回の月食は、１９時１２分に欠けた状態の月が昇ってくる「月出帯食（げつしゅつたいしょく）」となります。その後、２０時９分に皆既食が始まり、２０時２８分に皆既食が終わります。その後は徐々にかけた部分が小さくなっていき、２１時５２分に部分食が終わります。今回の月食は南東の低い空で起こるため、周りに高い建物が少ない見通しの良い場所で観察するのがおすすめです。

ステラナビゲータ 11/株式会社アストロアーツ